第10回ウイルス学キャンプin湯河原報告

 （公財）東京都医学総合研究所・藤井健

　平成25年5月30日、31日の2日間、第2回領域班会議に続き、ウイルス学キャンプin湯河原が行われた。このウイルス学キャンプは平成16年にウイルス学者の交流をより深める目的で発足したものであり、今回で第10回目を迎えている。今年は感染コンピテンシ班が共催となり領域内外の若手研究者の啓蒙、交流の場としてなお一層充実を図ることとした。世話人５名の他、研究班員の研究室所属の若手研究者16名、それ以外の若手研究者5名の参加者があった。

　一日目は広島大学入江崇准教授、阪大微研森田英嗣特任准教授、名古屋大学村貴之准教授による招待講演があり、専門にしているウイルスについてこれまでの研究成果について解説した。後半の一般口演では、公募班員である京都大学・本田知之助教による宿主によるボルナウイルスゲノム認識機構の発表をはじめ領域関係者5名による発表があった。世話人増田道明教授の発案により、Best question賞が設けられたためか、参加者ほぼ全員が討議に参加するなど活発な討論となった。二日目は、ポスター発表では、討論や情報交換が行われた。

　今回は記念すべき第10回という節目に領域内からウイルス学のみならず構造生物学、数理生物学の研究者の方々にご参加いただくことで、これまでにない交流の場を作り出せ、感染コンピテンシ班の領域目標に沿った若手研究会となったことが最大の成果となった。このような情報交換・討論の機会を通して、ますます領域内外の交流を深め、領域の進展のみならず学問の発展に寄与することが期待される。